

祝 創立75周年
令和7年度12月号



咲かせよう大正の花 つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://www.taito.ed.jp/1380011>



表現力の育ち

園長 北村 恵

夏は緑色一色だった園庭に、ふと気づくと茶色や黄色が増えてきて、秋の深まりを感じます。外周りのプランターに植えていたマリーゴールドが、寒くなるにつれて濃い赤に変わりました。調べてみると、種類によって、夜に気温が下がる時期に赤くなるものがあるそうです。園庭のプランターのマリーゴールドは別種のように黄色なので、登降園時に比べて見てみてください。

生活発表会まであと1週間となり、どの学年の子供たちもそれぞれの表現を楽しむ姿が見られています。3歳児うさぎ組は、誰かに見せるという意識はないので、その日になりたい動物になって、先生の話すストーリー(日によっていろいろなお話に変わります)の中で、伸び伸びと猫になったりぞうになったりしてお出かけを楽しんでいます。鳴き声や動きも本物の動物のようになっていること自体が嬉しい!という姿がとても可愛いです。自分の出番ではないときも猫やうさぎやぞうになって友達とじゃれあっています。表現するということは、子供にとって自然な営みなのだとすることを改めて感じさせてくれる姿です。

4歳児ぱんだ組は「ねこのお医者さん」のストーリーで劇ごっこを楽しんでいます。劇の中で繰り返し歌う歌は子供たちも大好きで、ふとした時に口ずさむ姿が見られています。自分のイメージする猫や恐竜や忍者になりきって動き、劇中では、ぱんだ組の子供たちが今までも繰り返し楽しんできた遊びを、元気いっぱいに見せてくれます。自分なりに意識して役らしく動こうとしているところに、3歳児とは違う表現が見られます。

5歳児は、「探偵ごっこ」が流行っていたことから、みんなで意見を出し合って、オリジナルストーリーを考えました。お客さんに見せる劇という共通の目的に向かって、動いてみてうまく伝わらないところや話がつながらないところは考え直したり、新しく話を足したりして、納得がいくものを作っています。声の大きさや演技も、見ている人に伝わるようにという目当てをもって、日々工夫しているところです。一人一人が自分の役にこだわりをもって表現している姿が見られます。大道具、小道具、衣装も友達と協力して作る、年長らしい姿が見られます。役として動くことはもちろん、場面転換も自分たちで行います。やらなければならないことは沢山ありますが、自覚的に動く姿はさすが5歳児です。

今年は、年中児は3つの楽器、年長児はさらに多くの楽器を使い、合同で「ラデツキー行進曲」の合奏をします。指揮を真剣に見ながら19名で行う合奏の表現も楽しんでください。

12月は年度末評価の時期でもあります。今年度もすくわくプログラムや学びのキャンパスプランニングを活用した「本物体験」や「自然体験」、「家庭・地域との連携」などを中心に学びの芽を育ててきました。今後、皆様からいただいたアンケート結果をもとに来年度の教育を組み立てていきたいと考えていますので、ぜひ、忌憚のないご意見を聞かせてください。